

令和 5 年 2 月 15 日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

産業建設委員会委員長 川上 幾雄

委員派遣報告書

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、視察調査を終了したので報告します。

記

- 1 期間 令和 5 年 1 月 31 日（火）～ 2 月 2 日（木）
- 2 視察先及び調査項目
 - (1) 千葉県柏市
 - ・アグリビジネスパーク事業について
 - (2) 千葉県鎌ケ谷市
 - ・果樹剪定枝等堆肥化事業について
 - (3) 千葉県木更津市
 - ・陸上養殖について
 - (4) 千葉県木更津市
 - ・道の駅の経営について
- 3 精算額 一人当たり 59,540 円
- 4 派遣委員、同行者、事務局（合計 7 名）

委員 川上幾雄 田畑敬二 沖田真治 串崎利行 上野茂
布施賢司
（牛尾委員は体調の都合により 1 月 17 日に派遣取りやめ）
事務局職員 大下貴子
- 5 調査の概要（視察の内容等）
別紙のとおり

産業建設委員会 行政視察報告

1 視察目的

産業建設委員会では、浜田市における産業の現状と将来を見据え、第一次産業をもっと大事にしていかなければいけないとの思いから、農業・漁業を中心とした第一次産業における課題の掘り起こし、解決につながるヒントを探る活動を行っている。この度の視察では、この活動の参考となる事業を視察し、問題解決のヒントを見つけたい。

また、農業・漁業産品販売の場とされている道の駅の運営に関し、タイムリーな課題として、公設民営の成功事例を視察し、浜田市の道の駅ゆうひパーク浜田の今後の経営に取入れることが可能なノウハウを学び、提案に繋げることを目的とする。

2 視察先・視察（調査）事項など

(1) 柏市（アグリビジネスパーク事業について）

ア 日時 令和5年1月31日（火）12:00～13:40

イ 場所 千葉県柏市「道の駅 しょうなん」

ウ 選定理由

千葉県柏市の「道の駅しょうなん」は第一次産業従事者の所得向上と産業振興を道の駅を中心に行っており、浜田市の道の駅「ゆうひパーク浜田」にとって経営再建のヒントとなるものがあると思われる。

エ 視察先の概要（視察先の取組、事業内容等）

➤ 概要

人口 432,815人、市域面積 11,474ha、農地面積 5,484ha

市域面積の約25%が農地 約1,400件の農家

主な作物：カブ・ネギ・ほうれん草

手賀沼は柏市、我孫子市、印西市、白井市にまたがる都心から30kmと最も近い天然湖沼で柏市を代表的な自然環境。

周辺は田園が広がり、道の駅「しょうなん」が玄関口となっている。

➤ 事業に至る経緯

平成13年に柏市が入り込み客数の増加を図るため、道の駅に農産品の直売所を併設し、地元農家に出店をお願いしたのが始まりである。想定していた年間入り込み客数60万人を大きく超える入客者となり、販売面積、駐車場ともに、十分な対応ができなくなった。

運営協議会が構成する作業部会から、売り場や駐車場の整備を求める意見もあり、手賀沼地域を周遊し交流人口増加となるよう、地域全体の活性化を目的として柏市が再整備を行った。

➤ 施設概要

令和4年4月に道の駅「しょうなん」がリニューアルオープン。手賀沼を中心とした公園や多目的イベント広場などは集いの場として、また、地元野菜を中心としたレストラン、ベーカリーなど、地元野菜を購入できるマルシェは都心からの交流人口拡大、地産地消の推進と農業従事者の所得向上を図る機能を発揮している。

今後はプログラムを幅広く連携し広げていく。

行政は委託料を払って委託。各団体によって連携を広げていくことが課題である。耕作放棄地対策市民団体が中心に行っており、行政は活動に対して支援を行っている。

施設	拡張前	拡張後
敷地面積	13,300 m ²	48,752 m ²
駐車場	90 台	398 台
農産物直売所面積	242 m ²	677 m ²
その他の施設	レストラン・ロビー 会議室	レストラン・ロビー 会議室 カフェコーナー → 大屋根ひろば 農芸交流館・芝生ひろば

施設整備費	2,879,540 千円 国・県補助、自主財源
指定管理料	年間 3000 万円を市へ納付
運営費	出店業者から売り上げの 20%を徴収
入り込み客数	令和3年 103 万人
売り上げ	7 億 6 千万 利益 600 万円
目標数値	入り込み客数 140 万人 売り上げ 10 億円

➤ 運営協議会の構成

- 株式会社 道の駅しょうなん (指定管理者)
- 有限会社 しょうなんファーム (地元農家)
- 合同会社 エッジハウス (飲食店、バーベキュー場の経営)
- NPO 法人 urban design partners balloon
- 都市計画 まちづくりコンサルタント
- 柏市 農政課 (監事)

➤ オブザーバー

- (一社) 柏市まちづくり公社、パースペクティブ合同会社、
- (一財) 柏市みどりの基金

商工振興課、広報公聴課、経営戦略課、公園緑地課 (Recanp しょうなん)

➤ コンテンツ

- ・ 農業体験プログラム・耕作放棄地対策・情報発信
- ・ 無料シャトルバス

オ 質疑の内容

(質問 1) 農産物等の納品者数、及び取引条件等があるか

(回答 1) 出荷者会登録数は 173 人。原則委託販売（市内農家の手数料は 20%以内）。その他売場の 8 割を市内関係産品としている。

(質問 2) 課題解決で一番難しいと感じるのは何か。

(回答 2) 各拠点で事業に協力いただいている市民団体等は着実に増加しているが、一つのフィールドの中で各団体同士の利害関係などもあり、全員が同じ方向を向いて地域活性化を行うには更なる対話が必要。

(質問 3) 道の駅が「稼げる施設」となるには、何が一番大事か。

(回答 3) 地域の農業者や商業者等と共に、市内産品を中心とした商品展開、売場作りを行うこと。

(質問 4) 幅広い分野にまたがる横断的な施策とはどのようなものか。

(回答 4) 農業だけではなく、自然を活かした水辺のアクティビティ (SUP, カヤック等) や釣り体験, 周辺の文化・歴史を巡るフットパスツアー, 環境学習等を地域で活動する市民団体や他部署と連携してコンテンツを提供している。各コンテンツを組み合わせた小学校向けの校外学習プログラムも開発し、R4 は 19 校, 1500 人以上の受入れをしている。

カ 各委員の所感

【川上委員長】

- ・ 周辺環境を活用する組織を構成している。
- ・ 農家等を主体とする部会において検討会を月 1 回行い、行政主導でなく、主体は協議会(部会)で、行政は希望をかなえるための施設整備に注力していた。
- ・ 行政の後方支援が大事。(損徳抜きのキーマンを支援、JA に補助をすることで生産者の負担を減じる。)

【田畑副委員長】

- ・ 顔の見える野菜として、生産者の顔写真を提示しており、とても好感を得た。
- ・ 情報発信として、SNS 媒体、映像、地域回遊促進がされており、行政農家・生産者と協議会がすばらしかった。

【沖田委員】

- ・ 行政が作業部会の一員として運営に携わり若い農業従事者や施設運営している業者の意見に対し、スピード感のある対応をしている。
- ・ 自治体の人口規模に関係なく出来る良い仕組みであり、行政支援が的確に行われている印象を受け見習うべき点である。
- ・ 今後、自主財源の確保の強化、稼げる農業を地場産業として育てていく支援を行うとしている。第一次産業従事者の所得向上は共通の課題であり柏市の取り組みは参考にすることが多くあると感じる。

【串崎委員】

- ・ 道の駅が経済の中心地的な役割や情報発信を担っていると感じた。農業形態から収穫体験等、体験を通じた交流をしており、まちづくりに深く関わっているのが印象的だった。

【上野委員】

- ・ 耕作放棄地を増さないために、農業者・商業者と連携し商品開発や売場作りなど行っており、浜田市も若者のアイデアを取入れて民間主導のまちづくり組織などで話しあうとよいと感じた。
- ・ 菓子や新鮮な野菜、魚等浜田近辺の商品を置き、農業や漁業が活かされ、皆が行きたくなる道の駅にすべき。

【布施委員】

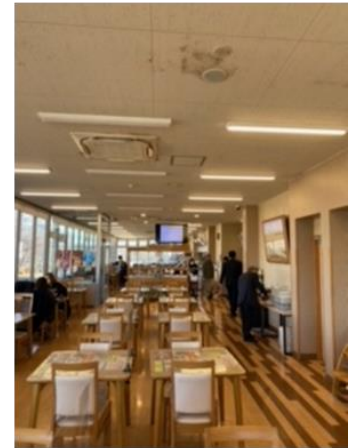
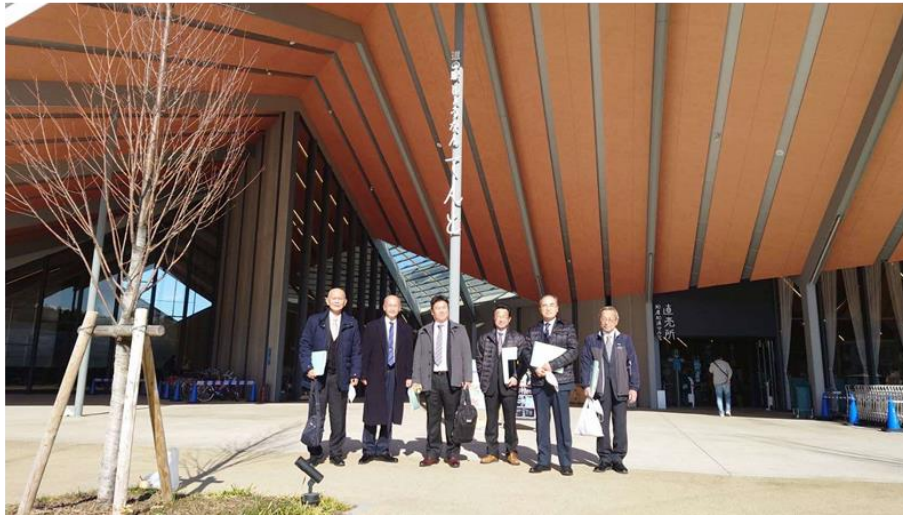
- ・ 規模の大小はあるが、現場の声を集約し、側面支援している。
- ・ 地域とともに、地元と連携して商品揃えをしている。
- ・ 生産者(納品者)と連携して、農業体験や加工体験は大事と感じた。



道の駅のシンボル 大屋根



説明を受ける様子



地元の野菜バイキングのあるレストラン

(2) 鎌ヶ谷市（果樹剪定枝等堆肥化事業について）

ア 日時 令和5年1月31日（火）15:00～16:30

イ 場所 千葉県鎌ヶ谷市役所

ウ 選定理由

千葉県鎌ヶ谷市では、農業で発生する選定枝が堆肥になって生まれ変わることで、資源の循環が形成され、焼却による煙害、CO2発生量の削減にもつながっている。浜田市での梨・柿・ブドウなどで活用できないか、廃棄物処理方法を学ぶため。

エ 視察先の概要（視察先の取組、事業内容等）

➤ 概要

千葉県鎌ヶ谷市 人口 109,564人 市域面積 21,08平方Km
都心から25キロ圏内でアクセスが良い場所に位置する。昭和30年代後半から宅地開発が進みベッドタウンとして新興住宅街化が進んできた。千葉県は梨の産出・生産額・栽培面積とも全国1位で市内農家の6割が梨の栽培を行っている。

➤ 事業に至る経緯

梨を栽培する作業の一環として、冬季に不要な枝の選定及び焼却することで、枝についての病害虫の駆除と焼却灰を土壌改良材とした在来農法による対処を行ってきた。新興住宅化が進むにつれ、焼却処分時に

発生する煙による苦情が問題となり市の方で対応することになった。

➤事業概要

【炭化事業】

熱分解によって、炭素密度の高い結晶状のバイオ炭を作り自然肥料、土壌改良材、燃料として利用。

【堆肥化事業】

粉碎機を使いチップ化した剪定枝をバイオ発酵し堆肥化して利用。

【バイオマス発電事業】

資源エネルギー庁の「再生可能エネルギー固定価格買取制度」を利用し事業着手。

剪定枝を固定価格買取制度に基づき「一般木質バイオマス」として発電利用することで農家が費用負担することなく剪定枝を処分することができる仕組みの構築。

【糞尿吸着材事業】

協議会からの提言を受け、剪定枝の性質が適しており、複数の受け入れ先があることなど畜産事業で使用する糞尿吸着剤として活用。

オ 主な質疑の内容

(質問 1) リサイクル協議会について、運営状況は。

(質問 2) 農林水産省のみどりの食料システム戦略にある化学肥料低減にむけても先進的な取り組みと思うが、収益状況は。

(回答 1・2) 市の負担金として一般会計から 77 万円出している。堆肥化委託負担金として、市の実施計画書に載せ 820 万円、合わせて 897 万円が結構お金のかかる事業である。

(質問 3) 海外からの輸入が厳しく、肥料高騰が収まらないが、地元の資源や他の資源や一般の剪定枝も対象にしていく考えはあるか。

(回答 3) 取組としては素晴らしいと思うが、剪定枝がかなり増え、逼迫しているので現時点では考えていない。将来的には幅広く他の資源もいいのかと思う。

(質問 4) 梨の選定のみか。他の種類の剪定枝を混ぜることはあるか。

(回答 4) 鎌ヶ谷市の農家 6 割が梨農家、バイオマス発電の場合、隣町の市原発電所の受け入れ条件として、梨 100%で、ぶどうは駄目となっている。

(質問 5) 炭化処理施設のインシヤルコストの財源と直近のランニングコストは。(雇用と主な経費)

(回答 5) 鎌ヶ谷市が行う以前に、自治体の受け入れを梨の選定枝で行っていた会社であるので、特に事業を始めるときに、かかった費用はない。

(質問 6) 梨農家に枝処理の経費負担はあるか。

(回答 6) 市の実施計画事業として行っているのですが、なるべく費用負担をかけないようにやっている。

(質問 7) 市民への堆肥・チップ販売の概要。また梨農家へも同じ条件で販売しているのか。

(回答 7) 市民に 20 円で販売と書いてあるが、基本的には決めてない。堆肥の山が増えてきたので 1 月と 3 月、第 3 土曜日に市民販売をしている。チップは 30 分取り放題なので大反響である。燃料費がかかっているのでもらってもいいのではと話している。

(質問 8) 現在の問題・課題は何か。

(回答 8) 集積所がひっ迫していることが一番の問題。

(質問 9) 梨を病気から守るために「鎌ヶ谷市なし赤星病防止条例」を策定し特定植物の保有等禁止しておられるが、市民からの苦情等はあるか。

(回答 9) 環境課などに確認しているが苦情はゼロである。



剪定枝の集積場



堆肥化した剪定枝

カ 各委員の所感

【川上委員長】

- ・ 多様な処理方法を行っておられるが、処分の最終段階迄の計画が不十分と聞いた。その中でバイオマス発電では難のある性状のチップを畜産関係が糞尿吸着剤として受入れるとのこと。安定供給可能となりそうなので試行期間として継続されるようである。

- ・長い枝は熱を加え加工品に利用できるのではと感じた。

【田畑副委員長】

- ・浜田市でも梨、西条柿等で検討すべきと思う

【沖田委員】

- ・剪定枝など廃棄物が大量に燃やされることによる近隣住民の苦情に対処するため炭化し堆肥に変え、リサイクルすることは素晴らしい取り組みである。
- ・バイオマス発電は先進的だが、受け皿となる委託業者の選定、所有施設の登録など国の認定を受けることはハードルが高いことをよく理解することができた。
- ・当市においても、赤梨、西条柿など剪定枝、農業、漁業など一次産業における廃棄物をリサイクルする、安価で処分する方法に取り組むことは産業支援につながると考える。

【串崎委員】

- ・推肥化事業は、協議会を作る事や市からの負担金もいるが、浜田市も環境に配慮した対策を考えるべきだと感じた。

【上野委員】

- ・浜田市とは周辺の環境が違うが、今後、梨・柿・ぶどうなど拡大があれば参考になると感じた。

【布施委員】

- ・後継者不足・高齢化は、地方に限らず、都市型農業でもあることが解った。野焼が出来ない為、集積場で堆肥するシステムは勉強になった。
- ・当市に於いて、梨園や、柿園の小さい農家を守っていく事は、行政が寄り添って取組むことと、市民に理解してもらう取組が必要。

(3) 木更津市（陸上養殖について）

ア 日時 令和5年2月1日（水）10：00～11：30

イ 場所 株式会社FRD ジャパン木更津プラント

ウ 選定理由

当市において一次産業は停滞しており、水産業については50億近くあった漁獲高は現在40億を切る状態で近年の漁業別水揚げは、漁獲量・漁獲高ともさらに減少傾向である。併せて船団の減少、船の老朽化、漁業者の高齢化・後継者不足などの諸問題等もあり、水産都市浜田の水産業はこのままでは危機的な状況に陥っていく。今「獲る漁業から、陸上養殖による育てる漁業」に着手すべきとの思いから、浜田漁港周辺における養殖事業の可能性や中山間地域での耕作放棄地などでの陸上養殖の可能性を探るため、木更津市の海からほど遠い工業団地内で養殖されている「おかそだちのサーモン」閉鎖循環式養殖システムを現地視察し、執行部にチャレンジするキッカケづくりを提案するため。

エ 視察先の概要（視察先の取組、事業内容等）

➤ 概要

株式会社 FRD ジャパン(実証実験プラント)

- ・ 魚種：トラウトサーモン（大型ニジマス 6 ヶ月目～出荷まで）
- ・ 生産量：30 トン/年
- ・ 立地：千葉県木更津市かずさ鎌足 3-9-13
- ・ 操業開始：2018 年 7 月 初出荷 2019 年 4 月

➤ 視察の内容

閉鎖循環式陸上養殖（水替え不要の養殖システム）の概要

バクテリアを活用した独自のろ過技術により最低限の換水率で水を循環させながら養殖を行うことが可能である。

（養殖の世界では残餌や魚のフンで水が濁り水質の維持が大変）
初期投資費用、管理、採算性について等

4つのメリット

- ① 海や川を汚さない、地球に優しい養殖手法
- ② 海や川を必要としないため、いつでもどこでも養殖ができる
- ③ 海水冷却コストが不要になる
- ④ 海水からの魚病侵入リスクが無い



配管は、全て最新鋭のろ過機に繋がっている



水質はクリアな透明
魚は元気よく泳いでいる



配合飼料（オーダーメイド）

オ 質疑の内容

（質問 1）なぜ、サーモンの陸上養殖か。

（回答 1）養殖の急拡大を支える海が不足。

サーモン類は特に深刻ノルウェー/チリの限界近い。

海に依存しない陸上養殖が必要。

（質問 2）既存技術との違いは。

（回答 2）水替え 1%前後/day（既存は 30%以上）

水温調整の電気代が安い。取水がないので水温維持のみ、
既存は特に夏場の電気代が高い。

場所を選ばない（少量の地下水/上水あれば立地可能）

(質問 3) 木更津プラントの初期投資は。

(回答 3) 小規模プラント 9 億円

(質問 4) 仕事の目標、他の養殖は考えているか。

(回答 4) 大規模の商業化。プラントは 100 億～200 億円。
高級魚のキングサーモン、アカムツ ハタ等を養殖したい。

(質問 5) 従業員は何名で、どのような職種か。

(回答 5) 15 名 4 職種 (養殖、エンジニア、水分析、事務系)

(質問 6) ろ過しても、ある程度バクテリアは繁殖しないのか。

(回答 6) 嫌気バクテリアによる硝酸の脱窒を行っている。

(質問 7) 飼料は何を使用しているのか。

(回答 7) JSA 認証を受けたペレットの配合飼料 (オリジナル)。
餌のコスト高が養殖には影響する。

(質問 8) 陸上養殖を行ううえで一番大切なことは。

(回答 8) 魚種選定 (コストがかかりすぎる事業なので高く売れる魚・成長が早く水質に影響されない魚)。
水質を維持する (毎日分析が成長のカギになる)。

(質問 9) 養殖生産量のペイラインはどのくらいか。

(回答 9) サーモンでは 1,000 トン 2,000 トンになる。高級魚は数百トンでも OK。

(質問 10) 稚魚の調達はどのようにしているか。

(回答 10) 稚魚ではなくアメリカから発眼卵を調達している (卵会社は世界で 2 社しかない)。

(質問 11) 陸上養殖参入支援資金について。

(回答 11) 自社では補助金は 0 である。商業化プラントは 200 億かかるが、親会社が三菱商事なのでできている。コストがかかるので参入者が限られる。自治体が誘致し商社と養殖プラント事業する事は不可能ではない。

カ 各委員の所感

【川上委員長】

- ・循環システムならば、年間を通じて販売が計画的におこなえ、加えて

成魚迄が1年ということで、システム化しやすい。

- ・水替不要のシステム(循環システム)もネックはあった。
- ・残渣(食べ残しや糞)の最終処理は外部へ依頼しているが、これの再利用を検討中とのことで、すべてを1社で完結させるのならば素晴らしいことだと思う。

【田畑副委員長】

- ・株主に三井物産がいることに、力強いと感じた。それに加え、実験段階とはいえ、将来に対する希望が見える事業である。

【沖田委員】

- ・この分野の研究開発費に対し補助メニューがない。多くの自治体から企業誘致を誘われても補助が十分とは言えず、現状は大手商社の支援でしか事業展開できないことが分かった。
- ・将来的に自治体間での誘致競争が起こることが予想されるが、浜田市がこの事業を展開する優位性、補助メニューの創設などを委員会で議論し、今後の成長産業として研究していく必要があると感じた。

【串崎委員】

- ・魚はなんでも養殖出来る様であるが、採算が重要とのこと。高級魚でないと採算が取れないのだということであった。
- ・多額の初期投資が必要。浜田市も、支援等も含め検討が必と必要と感じる。

【上野委員】

- ・廃校やプールの活用には多くの問題があるとのこと。この事業に期待していたが、初期投資も多くかかる。日本中に広げたいと言われたので、浜田市で高級魚の赤ムツ(ノドグロ)の養殖の誘致に期待したい。

【布施委員】

- ・今後5年先、10年先の水産資源を考える当市にとって、コストはかかるが、一つの取組のヒントになると感じた。
- ・商業ベースになるのは100億~200億かかるとの試算だが、小規模でも、魚種を絞ってやることも可能であると思う。



広報担当者から説明を受ける様子

木更津プラント前にて



(4) 木更津市（道の駅の経営について）

- ア 日時 令和5年2月1日（水）11：30～13：30
- イ 場所 木更津市「道の駅うまくたの里」
- ウ 選定理由

周りを田んぼや畑に囲まれた場所で、大きな収益を出している道の駅に、集客のノウハウや経営努力を伺い、浜田市の道の駅「ゆうひパーク浜田」にも取組めるものがないかを探り、委員会として提案するため。

エ 視察先の概要（視察先の取組、事業内容等）

➤ 視察先の概要

「道の駅うまくたの里」は、房総の玄関口である東京湾アクアラインを通して最初に出会うことのできる道の駅。気軽に立ち寄れる休憩場所として、農業振興や観光振興など地域の活性化に貢献する新たな広域交流の場、また、6次産業化を進め、地域の豊かな自然環境や地域資源も利用している。

➤ 視察の内容（視察先の取組、事業内容等）

経営状況について
農業振興や観光振興について

オ 質疑の内容

（質問1）指定管理について

（回答1）指定管理15年 指定管理料3,000万円

（質問2）道の駅取り組みについて

（回答2）バス会社と1人50円で契約を結んでいる。

商業ノウハウについては、伊豆に本店があり参考。

3名の職員と24人のアルバイトでしている。

土・日曜日は、イベント等を行い、客数は、4,000人～5,000人、

通常日は、2,000人～3,000人である。
メイン商品は大きくアピールをしている。
農家との契約は、300件以上に増え、農家所得向上に貢献し、
農業振興につながっている。
新鮮な野菜が毎日豊富にあり、平日は地元の客が多い。

(質問3) 観光客と地元の方との割合は。

(回答3) 平日は地元の方が6割で、野菜を中心に買われる。
土日は観光客が7～8割で、おみやげ物が中心。

(質問4) 人気のイベントの内容は。

(回答4) 毎週土日に、B級野菜等の詰め放題を店内入り口付近で行っている。それを目当てに来られたお客さんが、そのまま店内で買い物をしていただくような仕組み。



店舗入り口のシンボリックなオブジェ



地元野菜の陳列棚



カ 各委員の所感

【川上委員長】

- ・ 駐車場から物販の全影が見えることにより、集客を行っていた。
- ・ 展示が島単位で行われ、加えて出入りにより人流に変化を付け幾多の情報を見る機会を作っている。
- ・ コマーシャルは、SNS・ブログで行っており、チラシは年数回・週辺のみならず県外へもコマーシャルしている。

【田畑副委員長】

- ・ 顔の見える野菜ということで、生産者の顔写真を提示し、農家との距

離感を縮めていた。

- ・平日は、1000人、土日は、2000人の見込客であり25名のアルバイトで対応している姿はすばらしいと感じた。
- ・指定管理料は3,000万円で、売上げに対し何%かの金額を市に払っており、大変利益をあげていると感じた。

【沖田委員】

- ・令和3年度は指定管理料を上回る金額を市に納付しておられ、素晴らしいと思う。
- ・300件の農家が登録し、農産品を中心に販売され、地元農家の所得向上に大きな推進力となっていた。
- ・今後も委員会テーマとして、第一次産業従事者の所得向上を図る取り組みをし、提言などで浜田市における第一次産業の振興に繋げたい。

【串崎委員】

- ・新鮮な野菜があり、地元の人が、毎日来る。土日は、地区外のお客が沢山来られる。商品の多さ、並べ方が、工夫しており、客が来る仕掛けがすごいと感じた。

【上野委員】

- ・主に契約農家300以上で増え続けている。売り上げが増えると、作付も増え良い形になっている。道の駅が農家とともに6次産業化を目指しているのがすごいと感じた。
- ・浜田もツーリズムや、農業体験などでファンを増やすために、農業・漁業・道の駅と連携に取り組むことが大切と感じた。

【布施委員】

- ・全体で2,000点余りの商品があり、その内300点は、オリジナル商品であった。(地場しか買えない商品開発)。
- ・商品展示は、一点に絞ったボリューム展示で、種類ごとに円形の島で動線を活かした店内である(POPも大きく解りやすい)
- ・平日のレジ通過者平均1,000人を生み出す為に、近隣の人が目当てにしている新鮮野菜(生産者の顔が見える)を置く事が肝であると思った。

3 委員会の考察（今後の取組に向けて）

(1) アグリビジネスパーク事業について

全体的な印象として、行政や関連団体等（JA・JF・観光協会など）からのビジネスに対する支援が重要な点であろうと感じた。加えて施設が駐車場に側しており、動線が短く利用しやすい。それは利用者の関心を引き付けることにもなる。

今後の問題として、自主財源の確保や農業者の育成、所得の向上を言われたが、浜田市も状況としては同じなので、その点をもっと検討していかなければならないと思っている。

(2) 果樹剪定枝等堆肥化事業について

不要物の堆肥化に目を向けられたことは注目に値すると感じた。浜田市においては、柿、梨に加えて野菜の廃物を放置または焼却している状況であるので、堆肥化を検討する必要があるかもしれない。

木材のチップによる火力発電への利用の現状を見ると、有効に利用されているように見えるが、SDG s の観点からも他の利用を考えなければならぬと感じた。

(3) 陸上養殖について

閉鎖循環式陸上養殖システムの優位性は十分に感じ取ることができた。しかし今後の発展は多額の投資とバックアップ体制が必要であり、若干不安を感じたところである。浜田市においても陸上養殖を検討中ではあるが、単独での起業は難しいと想像できるので、このようなシステムのノウハウを受託するなどして検討していくべきである。

また、専門の技術や知識も必要なことから、技術者の養成も必須と感じており、そのための支援の必要性も感じたところである。

(4) 道の駅の経営について

道の駅の環境として、バイパスと一般道を抱え、また見晴らしの良さなど、人動に非常に有利と見受けられた。一方、道の駅ゆうひパーク浜田は山陰道一本であるので、ここに問題があるようにも思う。

商品展示や商品数など、過去、非常に努力されて積み上げられたノウハウに加え、現場における直接的な管理（場内周回及びインカムによる指示等）により、従業員が適宜対応しているところに特色がみられた。

商品は子供向けや年齢に沿う形で取り揃えられ、それぞれに互い違いに島が構成されており、POP に注目させる工夫がされるなど参考になるところである。

また、ツーリズムや農業体験などで顧客を増やすために農業者や漁業者との連携に取り組むことが必須であると感じた。そのうえで、まずは平日に地元の方が買い物に利用したいと思うような品揃えや店舗を構築していくことが、喫緊の課題ではと感じている。